

# 代々木図書館新聞

よよぎとしょかんしんぶん

渋谷区立代々木図書館 03-3370-7566

〒151-0053 渋谷区代々木 3-51-8 代々木区民施設 4F

Vol. 31  
2015年7月15日

## 平田篤胤の妖怪ワールド

### 異界から来るもの

左から『霊の真柱 (たまのみはしら)』平田篤胤著 岩波書店／『仙境異聞 勝五郎再生記聞』平田篤胤著 岩波書店／『平田篤胤が解く稲生物怪録』荒俣宏著 角川書店／『平田篤胤 (別冊太陽)』米田勝安編 平凡社



平田神社 渋谷区代々木3-8-10

#### ●平田篤胤を祀る神社

代々木図書館前の通りを渡って、右手にある小田急線のガードの手の道を入ると、まもなく平田篤胤大人命を祀る平田神社が見えて来ます。

平田篤胤(1776~1843年)は幕末の国学者として知られていますが、その研究の分野は広く天文学、暦学、地理学などに及んでいます。東洋、西洋医学の知識もあり、人体解剖に参加したこともありました。さらに人体を解剖しても解らない人の心や知恵、人の力の及ばない怪奇な事象や幽界の研究にも力を注いでいます。

#### ●異界はすぐそこに

『霊の真柱』に人が死ぬと魂は幽界に行くが、そこは現世と別にあるのではない。現世のどこにもあるが、隔たりがあつて見えない。しかし、幽界からは現世が見えているとあります。まれに人が幽界に入ることがあり、幽界から接触してくることがあるといい、篤胤はそうした体験をした人の話を集めています。

#### ●天狗小僧

天狗に伴われて山に入り、修行をして幽界にも行ったという天狗小僧、寅吉から聞きとったのが『仙境異聞』。幽界での衣食住、祭礼、修行、呪術などについて記されています。

『勝五郎再生記聞』は、「自分はもと勝蔵で六歳で死んだが、この家の子に生まれ変わった」という勝五郎から聞きとったもの。生まれ変わる家の庭の柿の木の下に三日いたあと、窓から家の中に入って、かまどの傍にもう三日いたことなどが語られています。

#### ●平太郎と妖怪

異界からこちらに来る妖怪は天狗ばかりではありません。ある時、稲生平太郎という少年が、隣の権八と百物語に挑みました。恐ろしい話をしてその

つど蠟燭を消す百物語をすると、妖怪が現れるといわれています。はたして二か月ほど経った夜、大男があらわれて荒々と毛が生えた太い手で掴みかかってきます。それから一か月もの間、大きな老婆の顔が戸口をふさいだり、塩俵が飛びまわって塩をまいたり、夜ごと怪奇な出来事に見舞われます。

#### ●『稲生物怪録』

平太郎の体験を書き記したものがあると知って篤胤は門人に筆写させています。平太郎自身の描いた画のある写本もありました。それらを付き合わせてそれぞれに漏れている怪異を補って、新たな書物を出そうとしますが果たせぬまま亡くなります。『稲生物怪録』(平田本)は、その後に見えられた資料も加えて、門人によって世に出されました。

平太郎と妖怪の話は、絵本『ぼくはへいたろう』などによって、今でも親しまれています。



左から「妖怪の肖像」倉本四郎著 平凡社／『ぼくはへいたろう』小沢正文 ビリケン出版

ぼっぼー!線路もいっぱい描いたよ



殻がくるくる回ります

きらきら  
カッコいいでしょ。  
手裏剣です

## おはなしと こうさく会

代々木図書館では、毎月第3土曜日の3時から「おはなしとこうさく会」を行っています。

おはなしを読んだ後、参加してくれたお友達みんなで工作をして簡単な物を作ります。出来上がったもので、みんなで楽しく遊び、お家に持って帰ってもらっています。

季節や行事に合った「おはなし」と「こうさく」の企画を心掛けています。8月は「夏休みこうさく会」

です。沢山のお友達の参加をお待ちしています。

### よくある質問

Q 申し込みが必要ですか？

A 必要ありません。

材料や道具は図書館で用意しています。時間までに代々木図書館においでいただければ結構です。

Q 乳幼児でも参加できますか？

A 特に年齢の制限は設けておりません。

乳幼児をお連れの方にも、参加して頂いています。お子さんの発達段階に応じて、親子工作を楽しんでください。

## 渋谷と文学

### 「切符」 浅田次郎 『夕映え天使』所収

新しい競技施設や商業施設、駅周辺の再開発と、来たる二〇二〇年のオリンピックに向けて東京が変わろうとしています。

この短編集に収められている『切符』もまた、東京オリンピック開催を目前にひかえた一九六四年の恵比寿が舞台。両親の離婚によって祖父と暮らすことになった広志が、周囲の人々との交流や別れを通して成長をする物語です。

ビール工場の煙突から昇る煙、工事現場の槌音、バラックがひしめくガード脇の焼き芋屋。渋谷川が流れ、オート三輪が道を駆け抜ける物語の中の渋谷は、景色はもちろん、音もにおいても時間の流れ方も、現在とはまったく異なる姿で描かれ、たった五十年でこんなにも様変わりしたのかと驚くばかりです。

昭和ノスタルジー、この機会にぜひ、ふれてみてはいかがでしょうか。



『夕映え天使』浅田次郎著、新潮社

## 図書館ご利用案内

開館時間

月・水～金曜日→11:00～19:00  
土日祝休日→9:00～17:00

7月～10月の休館日

毎週火曜日・第3日曜日  
7/9(木)・8/13(木)・9/10(木)・  
10/2(金)は館内整理日のため  
休館します

## 2015年7月～10月の催し

おはなし会

開催日 毎週木曜日(第2木曜日を除く)  
●10月8日はおはなし会はありません

時間 15時～15時30分

おはなしとこうさく会

開催日 第3土曜日  
●7月はおはなしとこうさく会はありません

時間 15時～15時30分

雑誌リサイクル

開催日 第4土曜日 時間 9時～

## お知らせ

●7月18日(土)は「1日図書館員」を開催いたします。小学校4年生以上のお子さんに、図書館の仕事を体験していただく企画です。どうぞご理解とご協力の程、よろしく願い申し上げます。

●代々木図書館新聞は季刊になり、次回は10月発行の予定です。

## 編集後記

「仙境異聞」は、天狗小僧寅吉の不思議な話のみならず、周囲の人々の反応も描き出しています。寅吉の話を自分の納得しやすいように変形して書き記す人、疑って逆に寅吉をだまそうとする人も。人間は、江戸時代も今もさして変わりがないようです。

ご紹介した本は、すべて渋谷区立図書館で借りられます。